

(19) 日本国特許庁 (J P)

再公表特許 (A 1)

(11) 国際公開番号

WO 00 / 0 2 1 8 9

発行日 平成13年9月11日 (2001.9.11)

(43) 国際公開日 平成12年1月13日 (2000.1.13)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

G 0 9 G 5/34  
3/36

識別記号

F I

G 0 9 G 5/34  
3/36

C

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全 41 頁)

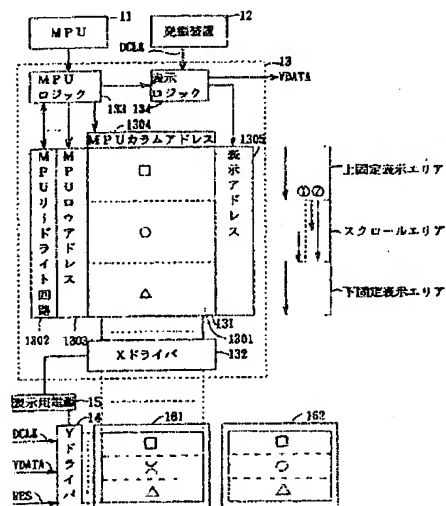
出願番号 特願2000-558511(P2000-558511)  
(21) 国際出願番号 P C T / J P 9 9 / 0 3 6 4 2  
(22) 国際出願日 平成11年7月5日 (1999.7.5)  
(31) 優先権主張番号 特願平10-189424  
(32) 優先日 平成10年7月3日 (1998.7.3)  
(33) 優先権主張国 日本 (J P)  
(81) 指定国 E P (A T, B E, C H, C Y, D E, D K, E S, F I, F R, G B, G R, I E, I T, L U, M C, N L, P T, S E), J P, U S

(71) 出願人 セイコーエプソン株式会社  
東京都新宿区西新宿2丁目4番1号  
(72) 発明者 石山 久展  
長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内  
(74) 代理人 弁理士 鈴木 喜三郎 (外2名)

(54) 【発明の名称】 半導体装置、画像表示システム、及び電子システム

(57) 【要約】

固定表示エリアの表示アドレスを記憶するレジスタ、スクロール領域のアドレスを記憶するレジスタ、スクロールを開始するアドレスを記憶するレジスタ等を有し、表示RAM 131の表示アドレスをカウントするカウンタに上記レジスタに記憶されたアドレスを適宜セットすることにより、アドレスの自由な飛び越しカウントを実現し、画面の一部をスクロールすることができる。これにより、表示RAM 131のデータを書き換えてスクロールする場合に比べて、MPU 11のアクセス回数が大幅に少なくなり、消費電力を少なくすることができる。又、スクロール中にMPU 11に割り込み等が入った場合、スクロール中のデータが見えることを回避できる。



**【特許請求の範囲】****【請求項1】** 表示データを記憶するメモリと、

前記表示データに基づく論理電圧を、表示装置を駆動するための駆動電圧に変換する電圧変換部とを備え、

基準クロックに従って前記表示データを前記メモリから読み出し、該読み出された表示データに対応して変換された前記駆動電圧を前記表示装置に供給する半導体装置において、

前記メモリのアドレスをカウントするカウント部と、任意のアドレスを記憶するレジスタとを備え、

前記メモリに記憶された表示データを読み出す順番を前記レジスタの内容に基づいて任意に設定することを特徴とする半導体装置。

**【請求項2】** 前記メモリは、前記表示装置の画素数に対応する表示データのメモリ容量よりも多いメモリ容量を有することを特徴とする請求の範囲第1項記載の半導体装置。

**【請求項3】** 表示データを記憶するメモリと、

基準クロックに従って前記表示データを前記メモリから読み出し、該読み出された表示データを電圧変換部に供給する表示コントローラと、

前記供給された表示データに基づく論理電圧を表示装置を駆動するための駆動電圧に変換し、該表示装置に該駆動電圧を供給する電圧変換部とを、備えた半導体装置において、

前記表示コントローラは、前記メモリのアドレスをカウントするカウント部と、任意のアドレスを記憶するレジスタとを備え、

前記メモリに記憶された表示データを読み出す順番を前記レジスタの内容に基づいて任意に設定することを特徴とする半導体装置。

**【請求項4】** 前記メモリは、前記表示装置の画素数に対応する表示データのメモリ容量よりも多いメモリ容量を有することを特徴とする請求の範囲第3項記載の半導体装置。

**【請求項5】** 第1の固定アドレスから第1のレジスタに記憶されたアドレスまでをカウントした後、第2のレジスタに記憶されたアドレスから第3のレジスタ

に記憶されたアドレスまでカウントすることを特徴とする請求の範囲第1項又は第2項記載の半導体装置。

【請求項6】 第1のレジスタに記憶されたアドレスから第2のレジスタに記憶されたアドレスまでをカウントした後、第3のレジスタに記憶されたアドレスから第2の固定のアドレスまでカウントすることを特徴とする請求の範囲第1項又は第2項記載の半導体装置。

【請求項7】 第1の固定アドレスから第1のレジスタに記憶されたアドレスまでをカウントした後、第2のレジスタに記憶されたアドレスから所定のカウンタ数をカウントした後、第3のレジスタに記憶されたアドレスから第2の固定アドレスまでカウントすることを特徴とする請求の範囲第1項又は第2項記載の半導体装置。

【請求項8】 第1の固定アドレスから第1のレジスタに記憶されたアドレスまでをカウントした後、第2のレジスタに記憶されたアドレスから第3のレジスタに記憶されたアドレスまでカウントすることを特徴とする請求の範囲第3項又は第4項記載の半導体装置。

【請求項9】 第1のレジスタに記憶されたアドレスから第2のレジスタに記憶されたアドレスまでをカウントした後、第3のレジスタに記憶されたアドレスから第2の固定のアドレスまでカウントすることを特徴とする請求の範囲第3項又は第4項記載の半導体装置。

【請求項10】 第1の固定アドレスから第1のレジスタに記憶されたアドレスまでをカウントした後、第2のレジスタに記憶されたアドレスから所定のカウンタ数をカウントした後、第3のレジスタに記憶されたアドレスから第2の固定アドレスまでカウントすることを特徴とする請求の範囲第3項又は第4項記載の半導体装置。

【請求項11】 前記表示装置は、線順次走査型の液晶表示装置であることを特徴とする請求の範囲第1、2、5、6又は7項記載の半導体装置。

【請求項12】 前記表示装置は、線順次走査型の液晶表示装置であることを特徴とする請求の範囲第3、4、8、9又は10項記載の半導体装置。

【請求項13】 少なくとも1つの固定表示エリアと少なくとも1つのスクロー

ル可能な表示エリアとを有することを特徴とする画像表示システム。

【請求項 14】 請求の範囲第 1、2、5、6、7 又は 11 項記載の半導体装置と、前記駆動電圧を入力して前記表示データに対応した画像を表示する表示装置とを、備えたことを特徴とする画像表示システム。

【請求項 15】 請求の範囲第 3、4、8、9、10 又は 12 項記載の半導体装置と、前記駆動電圧を入力して前記表示データに対応した画像を表示する表示装置とを、備えたことを特徴とする画像表示システム。

【請求項 16】 請求の範囲第 1、2、5、6、7 又は 11 項記載の半導体装置を備えた電子システム。

【請求項 17】 請求の範囲第 3、4、8、9、10 又は 12 項記載の半導体装置を備えた電子システム。

【請求項 18】 請求の範囲第 13 項記載の画像表示システムを備えた電子システム。

【請求項 19】 請求の範囲第 14 項記載の画像表示システムを備えた電子システム。

【請求項 20】 請求の範囲第 15 項記載の画像表示システムを備えた電子システム。

**【発明の詳細な説明】****技術分野**

本発明は、表示装置に表示された表示データの位置を効率よく変更するために用いられる半導体装置、この半導体装置を用いた画像表示システム、及びこの画像表示システムを用いた電子システムに関するものである。更に詳しくは、表示RAM (R a n d o m A c c e s s M e m o r y) に記憶された表示データを画像表示システムに供給する順番に関するものである。

**背景技術**

表示装置として用いられる液晶ディスプレイ (L i q u i d C r y s t a l D i s p l a y、以下、「LCD」という) を表示するためには、LCDドライバと呼ばれる半導体装置が用いられる。LCDドライバには、LCDのデータ電極を駆動するセグメントドライバ (以下、「Xドライバ」という) と、LCDの走査電極を駆動するコモンドライバ (以下、「Yドライバ」という) とが存在する。Xドライバは、LCDに表示すべき表示データを、表示コントローラと呼ばれる回路を介して表示RAMより受け取り、LCDを駆動するために必要な電圧に変換する回路である。Yドライバは、Xドライバから供給されるデータ信号を書き込むラインを選択するデータを表示コントローラを介して受け取り、選択／非選択の電圧をLCDを駆動するために必要な電圧に変換する回路である。通常では、線順次に選択ラインが走査される。

近年、半導体製造技術及び回路技術の進歩により、Xドライバ、表示RAM、表示コントローラを1つのICに集積したり、更に、Yドライバ及びLCD表示用電源回路も集積することができるようになり、表示システムにおけるチップ数の削減及び消費電力の削減が進んでいる。

第2図は、従来の画像表示システムの概略の構成図である。

この画像表示システムは、マイクロプロセッサ (以下、「MPU」という) 1を有している。MPU 1は、中央演算処理装置で構成され、LCDに表示したい表示データを表示RAMに書き込むための信号を発生する機能を有している。発振装置2は、LCDの表示に必要な基準クロックを発生する機能を有している。RAM内蔵Xドライバ3は、表示RAM31、図で明示していないがMPUロジ

ック33と表示ロジック34とで構成される表示コントローラ、及びXドライバ32を1チップに内蔵したものである。Yドライバ4は、Xドライバ32から供給されるデータ信号を書き込むラインを選択するデータを表示コントローラを介して受け取り、選択／非選択の電圧をLCDを駆動するために必要な電圧に変換する回路である。表示用電源5は、LCDの表示に必要な電圧を発生させる機能を有している。LCDパネル61、62は、同一のものであるが、異なる画面を表示した場合を表している。表示RAM31は、MPUインタフェースと表示系のインタフェースとを非同期に行うデュアルポートRAMで構成されている。Xドライバ32は、表示RAM31から読み出された表示データをLCD表示に必要な電圧に変換する回路である。MPUロジック回路33は、MPU1から送られたコマンドの処理や、表示RAM31に読み書きする表示データの制御等、MPU1に関わる処理を行う機能を有している。表示ロジック回路34は、表示RAM31から表示データを読み出してXドライバ32に供給する制御や、Yドライバ4の制御等の表示に関わる制御を行う機能を有している。メモリ領域301は、表示データを記憶する領域である。MPUリードライト回路302は、メモリ領域301に読み書きの制御を行う回路である。MPUロウアドレス303は、MPU読み書き時のメモリ領域301のY（ロウ）方向のアドレスを示すデコーダである。MPUカラムアドレス304は、MPU読み書き時のメモリ領域301のX（カラム）方向のアドレスを出力するデコーダである。表示アドレス305は、メモリ領域301に記憶された表示データのうち、Xドライバ32へ供給する表示データを読み出すためのデコーダである。

LCDパネル61の表示容量は320×240ドットであり、パネルの左側にコモン電極を240本、及び上側にセグメント電極を320本有している。RAM内蔵Xドライバ3に内蔵されている表示RAM31の容量は、LCDパネル61の表示容量と同じ320×240ビットである。表示RAM31のMPUカラムアドレス304は、LCDパネル61のX方向のドット数と同じ320のアドレスを有している。表示RAM31のMPUロウアドレス303は、8ビット同時書き込みであるので、LCDパネル61のY方向のドット数である240を8で割った結果である30のアドレスを有している。MPU1は、任意のアドレス

をMPUカラムアドレス304とMPUロウアドレス303とにMPUロジック回路33を介して指定することにより、表示したいデータを表示RAM31の任意の位置にMPUロジック回路33及びMPUリードライト回路302を介して書き込むことができる。表示データは、1ビットがLCDパネル61の表示の1ドットに相当する表示データが“0”であればLCDパネル61の対応する所定のドットは白色に表示され、“1”であれば黒色に表示されるようになっている。

表示アドレス305は、LCDパネル61のY方向のドット数と同じ240のアドレスを有している。表示ロジック回路34は、表示アドレス“0”～“239”のうちのいずれか1つのアドレスを指定する。表示RAM31は、表示アドレスが指定されたとき、LCDパネル61のX方向のドット数と同じ320ビットのデータをパラレルに出力し、Xドライバ32に供給するものである。Xドライバ32は、受け取った表示データをLCDパネル61を駆動するために必要な電圧に変換し、LCDパネル61へ供給して駆動するものである。

第3図は、第2図の画像表示システムの動作を説明するための各部の信号のタイムチャートであり、縦軸に論理レベル、及び横軸に時間がとられている。この図を参照しつつ、第2図の動作を説明する。

信号401はリセット(RESET)信号、信号402は発振装置2から供給される基準クロックDCLK、信号403、412は表示ロジック回路34に含まれる図示しないアドレスカウンタの出力、信号404、413は表示RAM31のデータがXドライバ32において基準クロックDCLKの立ち下がりで取り込まれたXドライバデータ、信号405はYドライバ4へ供給される選択信号YDATA、信号406～411はYドライバ4中の図示しない240段シフトレジスタにて転送される選択データである。

リセット信号RESETの立ち上がりエッジにより、表示ロジック回路34中の図示しないアドレスカウンタの出力は、信号403に示すように“0”に初期化される。その後、基準クロックDCLK402の立ち上がりエッジにより図示しないアドレスカウンタの出力は信号403に示すようにカウントアップされ、“239”までカウントされると“0”に戻る。アドレスカウンタの出力信号であ

る信号403は、表示アドレス305に供給され、表示アドレスが“0”～“239”まで順に指定される。

YDATA405は、Yドライバ4に供給される選択信号であり、“H”がライン選択に対応し、“L”が非選択に対応する信号である。YDATA405は、リセット信号RESの立ち上がりエッジから次の基準クロックDCLKの立ち上がりエッジまで“H”になる。それ以後、基準クロックDCLKの240発毎に“H”になる。Yドライバ4は、基準クロックDCLKの立ち下がりエッジにてYDATAを取り込み、図示しない内部の240段シフトレジスタによってYDATAを転送する。240段シフトレジスタの各レジスタの出力は信号406～411のようになり、Yドライバ4の240個ある各端子のデータになる。その各レジスタの出力は、液晶表示に必要な電圧に変換されてLCDパネル61へ供給され、LCDパネル61が駆動される。LCDパネル61の上端の端子には、信号Y0(406)のデータが液晶表示に必要な電圧に変換されて供給され、その下の隣の端子には信号Y1(407)のデータが供給され、又、その下の隣の端子には信号Y2(408)のデータが同様に供給される。つまり、240本あるコモン電極のうちの1本が選択され、上端から下端の電極に向かって選択電極が走査される。

表示RAM31の表示アドレス305は、上端から下端に“0”～“239”のアドレスが付されている。第2図に示すように、メモリ領域301には、MPU1により、表示アドレスの“0”～“239”に渡って、“□”、“○”及び“△”のデータが書き込まれている。この表示データは、メモリ領域301のうち、“1”と書いたところが黒の表示になり、“0”と書いたところが白の表示となることから、図式的に表したもので、実際にはメモリ領域301に電氣的に書き込まれたものである。

第3図中のアドレスカウンタの出力信号403のように、リセット信号RESにより表示アドレスが“0”に初期化されると、次の基準クロックDCLKの立ち下がりエッジによりXドライバ32は表示アドレス“0”の表示データをXドライバデータ404のようにセグメント電極に出力する。そのとき、Yドライバ4は、信号Y0(406)に示すように、LCDパネル61の上端のコモン電極



に選択信号を出しているので、LCDパネル61の上端のラインに表示アドレス“0”のデータが書き込まれて表示される。次の基準クロックDCLKの立ち下がりエッジにより、Xドライバ32は表示アドレス“1”の表示データをXドライバデータ404のようにセグメント電極に出力する。そのとき、Yドライバ4は、信号Y1(407)に示すように、LCDパネル61の上端から2番目のコモン電極に選択信号を出しているので、LCDパネル61の上端から2番目のラインに表示アドレス“1”のデータが書き込まれて表示される。同様に、次の基準クロックDCLK(402)の立ち下がりエッジにより、次の表示データが次の選択ラインに書き込まれて表示される。今、表示RAM31には表示アドレスの“0”～“239”に渡って、データ“□”，“○”，“△”が書き込まれており、表示アドレスは“0”から“239”までカウントされつつ進められ、コモン電極は上側から1ラインずつ線順次に選択されるので、結果として、LCDパネル61に表示されるのは、第2図に示したように、表示RAM31の表示アドレス“0”～“239”の順番に従い、LCDパネル61の上側から下側に表示される。

次に、第3図のアドレスカウンタの出力412のように、リセット信号RES(401)により表示アドレスを例えば“120”に初期化すると、次の基準クロックDCLK(402)の立ち下がりエッジにより、Xドライバ32は表示アドレス“120”の表示データをXドライバデータ(413)のようにセグメント電極に出力する。そのとき、Yドライバ4は、信号Y0(406)に示すように、LCDパネル62の上端のコモン電極に選択信号を出しているので、LCDパネル62の上端のラインに表示アドレス“120”のデータが書き込まれて表示される。次の基準クロックDCLK(402)の立ち下がりエッジにより、Xドライバ32は表示アドレス“121”の表示データをXドライバデータ(413)のようにセグメント電極に出力する。そのとき、Yドライバ4は、信号Y1(407)に示すように、LCDパネル62の上端から2番目のコモン電極に選択信号を出しているので、LCDパネル62の上端から2番目のラインに表示アドレス“121”のデータが書き込まれて表示される。同様に、次の基準クロックDCLK(402)の立ち下がりエッジにより、次の表示データが次の選択ラ

インに書き込まれて表示される。今、表示RAM31には、表示アドレスの“0”～“239”に渡ってデータ“□”，“○”，“△”が書き込まれているとする。表示アドレスは、“120”から“239”までカウントされつつ進められると“0”に戻り、再び“0”からカウントされつつ進められ、コモン電極が上側から1ラインずつ線順次に選択されるので、結果として、第2図に示したように、表示RAM31の下側（即ち、表示アドレス“120”～“239”）がLCDパネル62の上側（上から1～120ライン）に表示され、表示RAM31の上側（表示アドレス“0”～“119”）がLCDパネル62の下側（上から121～240ライン）に表示される。

表示ロジック回路34中にある図示しないアドレスカウンタの表示アドレスはリセット信号RES（401）のタイミングで所定の初期値にセットされる。MPU1は、表示アドレスの初期値を、MPUロジック回路33を介して自由に設定することができる。従って、MPU1は、表示RAM31の表示データを書き換えることなく、第3図の図示しないアドレスカウンタにLCDパネル61の上端に表示したい表示アドレスの初期値を書き込むだけで、画面の縦方向のスクロールを行うことができる。

しかしながら、アドレスカウンタが“239”までカウントして“0”に戻ってしまう上記の構成によると、LCDパネル61の全画面がスクロールしてしまう。この構成によると、例えば、LCDパネル61の表示領域の上側や下側にスクロールしたくない表示があり、画面の一部だけをスクロールしたいという場合には、表示RAM31中のスクロールしたい領域の表示データをMPU1からMPUロジック回路33を介して書き換えなければならない。この場合、MPU1からRAM内蔵Xドライバ3に対するアクセス回数が大きく増加し、表示システムの消費電力が増大する。更に、スクロールする表示データの書き換え中にMPU1に他の割込み信号が入り、表示の書き換えが途中で中断された場合等には、スクロール途中の書き換え中の表示データがLCDパネル61に表示されてしまうという問題点があった。

#### 発明の開示

そこで、上記問題点に鑑み、本発明の目的は、前記の問題点を解決した半導体

装置、画像表示システム及びこれらを用いた電子システムを提供することにある。

前記目的を達成するために、本発明の第1の態様は、表示データを記憶するメモリと、前記表示データに基づく論理電圧を、表示装置を駆動するための駆動電圧に変換する電圧変換部とを備え、基準クロックに従って前記表示データを前記メモリから読み出し、該読み出された表示データに対応して変換された前記駆動電圧を前記表示装置に供給する半導体装置において、前記メモリのアドレスをカウントするカウント部と、任意のアドレスを記憶するレジスタとを備え、前記メモリに記憶された表示データを読み出す順番を前記レジスタの内容に基づいて任意に設定することを特徴としている。

本発明の第2の態様は、表示データを記憶するメモリと、基準クロックに従って前記表示データを前記メモリから読み出し、該読み出された表示データを電圧変換部に供給する表示コントローラと、前記供給された表示データに基づく論理電圧を表示装置を駆動するための駆動電圧に変換し、該表示装置に該駆動電圧を供給する電圧変換部とを、備えた半導体装置において、前記表示コントローラは、前記メモリのアドレスをカウントするカウント部と、任意のアドレスを記憶するレジスタとを備え、前記メモリに記憶された表示データを読み出す順番を前記レジスタの内容に基づいて任意に設定することを特徴としている。

本発明の第3の態様は、画像表示システム少なくとも1つの固定表示エリアと少なくとも1つのスクロール可能な表示エリアとを有することを特徴としている。

このような構成を採用したことにより、本発明では、任意のアドレスを記憶するレジスタを備えることにより、表示装置に与える表示データを記憶するメモリの表示アドレスを指定する順番は、任意のアドレスから任意のアドレスまでカウントした後、任意のアドレスに飛び、任意のアドレスまでカウントされる。そのため、メモリのデータを書き換えることなく、表示の部分的なスクロールが行われる。これにより、本発明の半導体装置は、画像表示システム及び電子システムに好適に用いることができる。

発明を実施するための最良の形態

## 第1の実施形態

第1の実施形態を図面に基づいて説明する。

第1図は、本発明の第1の実施形態を示す画像表示システムの概略の構成図である。

この画像表示システムは、MPU 11を有している。MPU 11は、中央演算処理装置で構成され、LCDに表示したい表示データを表示RAMに書き込む信号を発生する機能を有している。発振装置12は、LCD表示に必要な基準クロックを発生する機能を有している。RAM内蔵Xドライバ13は、表示RAM 131、図で明示していないがMPUロジック133と表示ロジック134とで構成される表示コントローラ、及びXドライバ132を1チップに内蔵したものである。Yドライバ14は、Xドライバ132から供給されるデータ信号を書き込むラインを選択するデータを表示コントローラを介して受け取り、選択／非選択の電圧をLCDを駆動するために必要な電圧に変換する回路である。表示用電源15は、LCDの表示に必要な電圧を発生する機能を有している。LCDパネル161、162は、同一のものであるが、異なる画面を表示した場合を表している。表示RAM 131は、MPUインタフェースと表示系のインタフェースとを非同期に行うデュアルポートRAMで構成されている。Xドライバ132は、表示RAM 131から読み出された表示データをLCD表示に必要な電圧に変換する回路である。MPUロジック回路133は、MPU 11から送られたコマンドの処理や、表示RAM 131に読み書きする表示データの制御等、MPU 11に関わる処理を行う機能を有している。表示ロジック回路134は、表示RAM 131から表示データを読み出してXドライバ132に供給する制御や、Yドライバ14の制御等の表示に関わる制御を行う機能を有している。メモリ領域1301は、表示データを記憶する領域である。MPUリードライト回路1302は、メモリ領域1301に読み書きの制御を行う回路である。MPUロウアドレス1303は、MPU読み書き時のメモリ領域1301のY（ロウ）方向のアドレスを示すデコーダである。MPUカラムアドレス1304は、MPU読み書き時のメモリ領域1301のX（カラム）方向のアドレスを示すデコーダである。表示アドレス1305は、メモリ領域1301に記憶された表示データのうち、Xド

ライバ132へ供給する表示データを読み出すためのデコーダである。

LCDパネル161の表示容量は320×240ドットであり、パネルの左側にコモン電極を240本、及び上側にセグメント電極を320本有している。RAM内蔵Xドライバ13に内蔵されている表示RAM131の容量は、LCDパネル161の表示容量と同じ320×240ビットである。表示RAM131のMPUカラムアドレス1304は、LCDパネル61のX方向のドット数と同じ320のアドレスを持っている。表示RAM131のMPUロウアドレス1303は、8ビット同時書き込みであるので、LCDパネル161のY方向のドット数である240を8で割った結果である30のアドレスを有している。MPU11は、任意のアドレスをMPUカラムアドレス1304とMPUロウアドレス1303とにMPUロジック回路133を介して指定することにより、表示したいデータを表示RAM131の任意の位置にMPUロジック回路133及びMPUリードライト回路1302を介して書き込むことができる。表示データは、1ビットがLCDパネル161の表示の1ドットに相当する。表示データが“0”であればLCDパネル161の対応する所定のドットは白色に表示され、“1”であれば黒色に表示されるようになっている。

表示アドレス1305は、LCDパネル161のY方向のドット数と同じ240のアドレスを有している。表示ロジック回路134は、表示アドレス“0”～“239”のうちのいずれか1つのアドレスを指定する。表示RAM131は、表示アドレスが指定されると、LCDパネル161のX方向のドット数と同じ320ビットのデータを平行に出力し、Xドライバ132に供給するのである。Xドライバ132は、受け取った表示データをLCDパネル161を駆動するために必要な電圧に変換し、LCDパネル161へ供給して駆動するものである。

第4図は、第1図中の表示ロジック回路134の回路図である。

この表示ロジック回路134では、カウンタ501～503は、セットリセット付きの8ビットアドレスカウンタである。レジスタ504～509は、8ビットのアドレスを記憶するものである。カウンタ510は、リセット付きの8ビットカウンタである。セクタ511～513は、8ビット2系統のデータA又は

データBのいずれかを選択するものであり、セレクト端子Sに“L”を入力することによりデータAを選択し、“H”を入力することによりデータBを選択するものである。一致検出回路514は、8ビット2系統のデータを比較するものである。セットリセットフリップフロップ（以下、「RSFF」という）515は、リセット端子Rに“H”パルスが入力されると“L”を出力し、セット端子Sに“H”パルスが入力されると“H”を出力するものである。ORゲート516は、2つの入力信号の論理和をとる回路である。信号525は、アドレスカウンタ出力である。

第5図は、第4図中の一致検出回路514の一例を示す回路図である。

この一致検出回路514では、符号517はエクスクルーシブNOR回路（以下、「EXN」という）、符号518は4入力のAND回路、符号519は2入力のAND回路、符号520はインバータ、符号521は遅延フリップフロップ（以下、「D-FF」という）、符号522は8ビット比較出力、符号523はD-FF出力、符号524は一致検出出力を示している。

第6図は第1図の動作を説明するための各部の信号のタイムチャート、及び第7図が第4図の動作を説明するための各部の信号のタイムチャートであり、縦軸に論理レベル、及び横軸に時間がとられている。これらの第6図、第7図及び第4図を参照しつつ、第1図の画像表示システムの動作を説明する。

信号1401はリセット（RES）信号、信号1402は発振装置12から供給される基準クロックDCLK、信号1403、1412は表示ロジック回路134に含まれる図示しないアドレスカウンタの出力、信号1404、1413は表示RAM131のデータがXドライバ132にて基準クロックDCLKの立ち下がりで取り込まれたXドライバデータ、信号1405はYドライバ14へ供給される選択信号YDATA、信号1406～1411はYドライバ14中の図示しない240段シフトレジスタにて転送される選択データである。

選択信号YDATA（1405）は、Yドライバ14に供給される選択信号であり、“H”がライン選択に対応し、“L”が非選択に対応する信号である。選択信号YDATA（1405）は、リセット信号RESの立ち上がりエッジから次の基準クロックDCLKの立ち上がりエッジまで“H”になる。それ以後、基

準クロックDCLKの240発毎に“H”になる。Yドライバ14は、基準クロックDCLKの立ち下がりエッジにて選択信号YDATAを取り込み、図示しない内部の240段シフトレジスタによって選択信号YDATAを転送する。240段シフトレジスタの各レジスタの出力は、信号1406～1411のようになり、Yドライバ14の240個ある各端子のデータになる。その各レジスタの出力は、液晶表示に必要な電圧に変換されてLCDパネル161へ供給され、LCDパネル161が駆動される。LCDパネル161の上端の端子には、信号Y0（1406）のデータが液晶表示に必要な電圧に変換されて供給され、その下の隣の端子には信号Y1（1407）のデータが供給され、又、その下の隣の端子には信号Y2（1408）のデータが同様に供給される。つまり、240本あるコモン電極のうちの1本が選択され、上端から下端の電極に向かって選択電極が走査される。

表示RAM131の表示アドレス1305は、上端から下端に“0”～“239”のアドレスが付けられている。第1図に示したように、メモリ領域1301にはMPU11により表示アドレスの“0”～“239”に渡って“□”、“○”及び“△”のデータが書き込まれている。更に、詳しくは、表示アドレスの“0”～“79”に渡ってデータ“□”、表示アドレスの“80”～“159”に渡ってデータ“○”、及び表示アドレスの“160”～“239”に渡ってデータ“△”が書き込まれている。尚、この表示データは“1”と書いたところが黒の表示、“0”と書いたところが白の表示となることから図式的に表したもので、実際にはメモリ領域1301に電氣的に書き込まれたものである。

表示RAM131は、表示アドレスが入力されると、そのアドレスの320ビットの表示データをXドライバ32に対して供給するので、表示アドレスを“0”から“239”まで1つずつ基準クロックDCLKに同期してインクリメントしていけば、Xドライバ32は基準クロックの立ち下がりデータを取り込み、電圧を変換して出力するので、Yドライバ14によりコモン電極の上端の電極が選択されているときには表示アドレス“0”のデータがセグメント電極に出力されて表示され、コモン電極の上端から2番目の電極が選択されているときには表示アドレス“1”のデータがセグメント電極に出力されて表示されるという具合

に、順に表示される。

本実施形態は、表示アドレスをカウントするデータを様々に変え、表示画面の上下に固定表示エリアを持ち、その間の表示をスクロールする方法を示すものであり、具体的には、“□”，“△”の表示を動かさず（固定表示）とし、“○”の表示データのみをスクロールするものである。尚、“□”の表示データが書かれている例えば表示アドレス“0”～“79”を上固定表示エリア、“△”の表示データが書かれている例えば表示アドレス“160”～“239”を下固定表示エリアと呼ぶ。

第7図において、信号401はリセット信号RES、信号402は発振装置12より供給される基準クロックDCLK、信号414はカウンタ501の出力、信号415はEXN517の出力、信号416はDFF521の出力、信号417はカウンタ501とレジスタ504の一致検出出力、信号418はセクタ511のセレクト端子Sへの入力、信号419はカウンタ502の出力、信号420はカウンタ502とレジスタ507の一致検出出力、信号421はカウンタ510とレジスタ508の一致検出出力、信号422はカウンタ503の出力、信号423はカウンタ503と固定アドレス“239”の一致検出出力、信号424はセクタ512のセレクト端子Sへの入力、信号425はセクタ513のセレクト端子Sへの入力、信号426は表示アドレス1305に入力するアドレスカウント出力である。

リセット信号RES（401）の立ち上がりエッジにより、カウンタ501は“0”がセットされて“0”を出力し、カウンタ502、503、及びカウンタ510はリセットされて“0”を出力し、セクタ512、513がRSFF515を介して端子Sに“L”が入力されてデータAが選択される。セクタ2、3がデータAを選択しているので、アドレスカウント出力525にはカウンタ501が出力している“0”を出力している。アドレスカウント出力525は、第1図中の表示RAM131の表示アドレス1305に供給され、表示アドレスが選択される。

レジスタ504～509には、MPU11よりMPUロジック回路133を介して、スクロールエリア、固定表示エリア、及び表示ライン数を示す任意のアド



レスが書き込まれている。即ち、レジスタ504には、上固定表示エリアである“□”が書き込まれている表示アドレスの最後である“79”が書き込まれている。レジスタ505には、スクロールエリアである“○”の書き込まれている表示アドレスの“80”～“159”のうち、先頭に表示したいスクロールスタートアドレス“120”が書き込まれている。レジスタ506には、固定表示エリアである“□”が書き込まれている表示アドレスの最後である“79”に“1”を表示ロジック回路133にて加算した“80”が書き込まれている。レジスタ507には、スクロールエリアである“○”が書き込まれている表示アドレスの最後である“159”が書き込まれている。レジスタ508には、表示ライン数である“240”から、下固定表示エリアである“△”が書き込まれている表示アドレスの表示ライン数に相当する“80”を減じた“160”から更に“1”を減じた“159”が書き込まれている。レジスタ509には、下固定表示エリアである“△”が書き込まれている表示アドレスの先頭である“160”が書き込まれている。

発振装置12より供給される基準クロックDCLKの立ち上がりエッジにてカウンタ501はカウントアップする。カウンタ501が“79”までカウントアップすると、レジスタ504に記憶されている上側の固定表示エリアの最終アドレス“79”と一致するので、一致検出回路514により一致が検出され、基準クロックDCLKの次の立ち上がりエッジから立ち下がりエッジまでの半クロック期間“H”を出力する。

ここで、一致検出回路514の動作を説明する。

EXN517は、2つの入力信号が一致すると“H”を出力する。4入力AND回路518は、4つの入力信号が全て“H”になると“H”を出力する。2入力AND回路519は、2つの入力信号が全て“H”になると“H”を出力する。従って、EXN517は8個あるので、8ビットのデータが全て一致すると、8ビット比較出力522に“H”が出力される。8ビット比較出力415に示すように、8ビットカウンタ501の出力信号が“79”となった期間と一致して“H”になる。8ビット比較出力522は、DFF521により基準クロックDCLKをインバータ520を介して反転された基準クロックDCLKにてラッチさ

れ、D-F F 5 2 1 の出力はD-F F 出力 4 1 6 に示すように、半クロック遅れる。D-F F 5 2 1 の出力信号は基準クロックとAND回路 5 1 9 により論理積が取られ、結果として、一致検出の出力信号 5 2 4 は、一致検出出力 4 1 7 に示すように、一致したアドレスの次の半クロックに“H”を出力するのである。

カウンタ 5 0 1 の出力信号が“7 9”になり、一致検出回路 5 1 4 a により“H”パルスが出力されると、セクタ 5 1 1 の端子 S に R S F F 5 1 5 a を介して“L”が入力され、データ A が選択される。データ A はレジスタ 5 0 5 から出力され、スクロールスタートアドレス“1 2 0”がセクタ 5 1 1 を介してカウンタ 5 0 2 に入力される。カウンタ 5 0 2 のセット端子 S には、一致検出回路 5 1 4 a の出力がORゲート 5 1 6 a を介して接続されているので、一致検出回路 5 1 4 a により出力された“H”パルスが入力され、スクロールスタートアドレス“1 2 0”がカウンタ 5 0 2 にセットされる。又、一致検出回路 5 1 4 a により出力された“H”パルスは、R S F F 5 1 5 b を介してセクタ 5 1 2 の端子 S に入力され、データ B が選択される。従って、アドレスカウンタ出力 5 2 5 には、セクタ 5 1 2, 5 1 3 を介して、カウンタ 5 0 2 の出力“1 2 0”が出力される。

基準クロック D C L K の立ち上がりエッジでカウンタ 5 0 2 がカウントアップし、“1 5 9”までカウントアップすると、レジスタ 5 0 7 に記憶されているスクロールエリアの最終アドレス“1 5 9”と一致するので、一致検出回路 5 1 4 b により一致が検出され、“H”パルスが出力される。その“H”パルスにより、セクタ 5 1 1 の端子 S に“H”が入力され、データ B が選択される。データ B は上固定表示エリアの最後である“7 9”に“1”が表示ロジック回路 3 3 にて加算された“8 0”が書き込まれているレジスタ 5 0 6 の出力に接続されているので、カウンタ 5 0 2 に“8 0”が入力される。カウンタ 5 0 2 のセット端子 S には一致検出回路 5 1 4 b の出力がORゲート 5 1 6 を介して接続されているので、一致検出回路 5 1 4 b による“H”パルスが入力され、“8 0”がカウンタ 5 0 2 にセットされる。

続けて、基準クロック D C L K の立ち上がりエッジでカウンタ 5 0 2 がカウントアップする。これと並行して、カウンタ 5 1 0 も基準クロック D C L K の立ち

上リエッジでカウントアップし、“159”までカウントアップすると、レジスタ508に記憶されている“159”と一致するので、一致検出回路514cにより一致が検出され、“H”パルスを出力する。下固定表示エリアの先頭アドレス“160”が書き込まれているレジスタ509の出力はカウンタ503に接続されているので、カウンタ503には“160”が入力される。カウンタ503のセット端子Sには一致検出回路514cの出力が接続されているので、一致検出回路514cによる“H”パルスが入力され、“160”がカウンタ503にセットされる。又、一致検出回路514cにより出力された“H”パルスは、RSFF515cを介してセクタ513の端子Sに入力され、データBが選択される。従って、アドレスカウンタ出力525には、“160”が出力される。

更に、基準クロックDCLKの立ち上がりエッジにてカウンタ503がカウントアップし、“239”までカウントアップすると、固定アドレスとして与えられている“239”と一致するので、一致検出回路514dにより一致が検出され、“H”パルスが出力される。これは、ORゲート516bを介してリセット信号RESとなり、設定が初期状態に戻る。そして、引き続き、基準クロックDCLKが入力されている限り、アドレスのカウントが繰り返される。

結果として、アドレスカウンタ出力525には、アドレスカウンタ出力426に示すように、リセット信号RESをスタートとして、“0”から“79”、“120”から“159”、“80”から“119”、“160”から“239”という順番でアドレスが出力される。このとき、Yドライバ14は、リセット信号RESをスタートとして、LCDパネル161の上端のラインから線順次を選択しているので、表示はLCDパネル161に示したように、スクロール表示領域の“○”は上半分と下半分とが逆転されて表示される。

スクロールは、スクロールエリアである“○”が書き込まれている表示アドレスの“80”～“159”のうち、先頭に表示したいスクロールスタートアドレスを記憶しているレジスタ505のデータを変更することにより実行できる。例えば、“90”をレジスタ505に書き込めば、リセット信号RESをスタートとして、“0”から“79”、“90”から“159”、“80”から“89”、“160”から“239”という順番でアドレスが出力される。又、“80”

をレジスタ505に書き込めば、リセット信号RESをスタートとして、“0”から“79”、“80”から“159”、“160”から“239”という順番でアドレスが出力される。結果として、“0”をレジスタ505に書き込んだ場合の表示は第1図のLCDパネル162に示したようになる。

つまり、“0”～“79”、及び“160”～“239”というアドレスの順番は変わらないので、その部分の固定表示が可能で、スクロール領域の表示だけに変化する。従って、MPU11は、表示RAM131の表示データを一切書き換えることなく、レジスタ505にスクロールしたい先頭の表示アドレスを書き込むだけで、画面の一部分のみの縦方向のスクロールを行うことができる。

スクロール表示エリアは、レジスタ504及びレジスタ506～509のデータを変更することにより、自由に変更が可能である。又、カウンタ501の入力データ“0”とカウンタ503の入力データ“239”は固定値としているが、他の値の入力データを他の図示しないレジスタから供給すれば、別のアドレスも設定できる。又、上固定表示エリアを固定的に表示し、それ以外のスクロールエリア及び下固定表示エリアを全てスクロールする場合や、下固定表示エリアを固定的に表示し、それ以外の上固定表示エリア及びスクロールエリアを全てスクロールする場合等は、本実施形態と同様の方法で、容易に実現できる。更に、第4図において、レジスタ504～509と同様のレジスタやカウンタ等を任意数追加し、任意のアドレスを入力すれば、画面を縦方向に任意数に分割でき、本実施形態と同様のスクロールを行うことができる。

## 第2の実施形態

第2の実施形態を図面に基づいて説明する。

第8図は、本発明の第2の実施形態を示す画像表示システムの構成図であり、第1の実施形態を示す第1図中の要素と共通の要素には共通の符号が付されている。

この画像表示システムでは、第1図中の表示RAM131及び表示ロジック134に代えて、記憶容量が大きい（例えば、320×320ビットの容量）RAM131A及び異なる構成の表示ロジック134Aが設けられている。LCDパネル161の表示容量が240×320ドットであるから、RAM131Aは全

画面を表示するのに必要な記憶容量以上の記憶容量を有している。表示RAM 131Aの表示アドレス1305は320あり、上端から下端に“0”～“319”のアドレスが付されている。メモリ領域1301にはMPU11により第1図に示したように、表示アドレスの“0”～“319”に渡って“□”，“○”，“×”，“△”のデータが書き込まれている。更に詳しくは、表示アドレスの“0”～“79”に渡って“□”のデータ、表示アドレスの“80”～“159”に渡って“○”のデータ、表示アドレスの“160”～“239”に渡って“×”のデータ、及び表示アドレスの“240”～“319”に渡って“△”のデータが書き込まれている。表示ロジック134Aでは、第1の実施形態を示す第4図中の一致検出回路514dの一方の入力データ“239”に代えて、入力データ“319”が設定されている。他は、第1図と同様の構成である。

第9図は、第8図の動作を説明するための各部の信号のタイムチャートであり、縦軸に論理レベル、及び横軸に時間がとられている。この第9図を参照しつつ、第8図の画像表示システムの動作を説明する。

基本的動作は第7図と同様であるが、カウンタ501の出力414、カウンタ502の出力419、カウンタ502の出力422のカウントデータが異なっている。即ち、レジスタ504～509には、MPU11よりMPUロジック回路133を介して、スクロールエリア、固定表示エリア、及び表示ライン数を示す任意のアドレスが書き込まれている。レジスタ504には上固定表示エリアである“□”が書き込まれている表示アドレスの最後である“79”が書き込まれ、レジスタ505にはスクロールエリアである“○”，“×”が書き込まれている表示アドレスの“80”～“239”のうち、先頭に表示したいスクロールスタートアドレス“80”が書き込まれ、レジスタ506には固定表示エリアである“□”が書き込まれている表示アドレスの最後である“79”に“1”を表示ロジック回路33にて加算した“80”が書き込まれ、レジスタ507にはスクロールエリアである“○”，“×”が書き込まれている表示アドレスの最後である“239”が書き込まれ、レジスタ508には表示ライン数である“240”から、下固定表示エリアである“△”が書き込まれている表示アドレスの表示ライン数に相当する“80”を減じた“160”から更に“1”を減じた“159”

が書き込まれ、レジスタ509には下固定表示エリアである“△”が書き込まれている表示アドレスの先頭である“240”が書き込まれている。

以上のように設定することにより、回路の動作は第1の実施形態と同様であるから、結果として、表示アドレス1305に与えられるアドレスカウンタ出力525は、第9図中のアドレスカウンタ出力426に示すように、リセット信号RESをスタートとして、“0”から“79”、“80”から“159”、“240”から“319”という順番に従ってアドレスが出力される。このとき、Yドライバ14は、リセット信号RESをスタートとしてLCDパネル161の上端のラインから線順次に選択しているので、LCDパネル161に示すように、スクロール表示領域の“○”、“×”のうちの“○”のみが表示され、“×”は表示されない。

スクロールは、スクロールエリアである“○”、“×”の書き込まれている表示アドレスの“80”～“239”のうち、先頭に表示したいスクロールスタートアドレスを記憶しているレジスタ505のデータを変更することにより実行できる。例えば、“160”をレジスタ505に書き込めば、リセット信号RESをスタートとして、“0”から“79”、“160”から“239”、“240”から“319”という順番でアドレスが出力される。結果として、“0”をレジスタ505に書き込んだ場合の表示は第8図のLCDパネル162に示したようになる。スクロールする前に表示していた“○”に代わって“×”が表示に現れている。つまり、余分なメモリが設けられていることにより、表示されていない表示データをスクロールすると同時に瞬時に表示させることができるので、円滑なスクロールができる。余分なメモリを持っていないと、スクロールエリアにおいて同じデータが位置を移動するだけなので、スクロールすると同時に新しいデータを表示させたい場合等は、スクロールさせると同時に、表示RAM131のデータを次々と書き換えねばならないが、一度に行うことができないばかりか、表示中のデータを書き換えることになるので、MPU11の書き換えるスピードやタイミングにより、スクロールが円滑に行われぬ。

スクロール表示エリアは、レジスタ504、及びレジスタ506～509のデータを変更することにより、自由に変更が可能である。又、カウンタ501の入

力データ“000”とカウンタ503の入力データ“319”は固定値になっているが、他の値の入力データを他の図示しないレジスタから供給すれば、別のアドレスも設定できる。又、上固定表示エリアとそれ以外は全てスクロールする場合や、下固定表示エリアとそれ以外は全てスクロールする場合は、本実施形態と同様の方法で、容易に実現できる。又、第1及び第2の実施形態はYドライバ14による選択ラインが1本という駆動方法にて実施したが、複数ラインを同時選択する駆動方法でも、本発明と同様の主旨で、容易に実現できる。

又、第1の実施形態と同様に、表示ロジック134Aにおいて、レジスタ504～509と同様のレジスタやカウンタ等を任意数追加し、任意のアドレスを入力すれば、画面を縦方向に任意数に分割でき、本実施形態と同様のスクロールを行うことができる。

### 第3の実施形態

第3の実施形態を図面に基づいて説明する。

第10図は、本発明の第3の実施形態を示す画像表示システムの構成図であり、第1の実施形態を示す第1図中の要素と共通の要素には共通の符号が付されている。

この画像表示システムでは、第1図中の表示ロジック134に代えて、異なる構成の表示ロジック134Bが設けられている。他は、第1図と同様の構成である。

第11図は、第10図中の表示ロジック134Bの要部の回路図であり、第4図中の要素と共通の要素には共通の符号が付されている。

この表示ロジック134Bは、スクロールスタートアドレス（例えば、“120”）を記憶するレジスタ505、スクロールエリアの先頭のアドレス（例えば、“80”）を記憶するレジスタ506、スクロールエリアの最後のアドレス（例えば、“159”）を記憶するレジスタ507、及びレジスタ508を有している。レジスタ508には、表示ライン数である“240”から、下固定表示エリアである“△”が書き込まれている表示アドレスの表示ライン数に相当する“80”を減じた“160”から更に“1”を減じた“159”が書き込まれている。レジスタ505にはセクタ511bの入力端子Aが接続され、レジスタ5

06にはセクタ511bの入力端子Bが接続されている。又、レジスタ506にはデクリメント回路（1を減算する回路）523が接続され、デクリメント回路523には一致検出回路514aの一方の入力側が接続されている。レジスタ507には、インクリメント回路（1を加算する回路）524が接続されると共に、一致検出回路514bの一方の入力側が接続されている。レジスタ508には、一致検出回路514cの一方の入力側が接続されている。リセット信号RES及び信号DATAは、OR回路521に入力されるようになっている。OR回路521の出力側には、基準クロックDCLKをカウントするカウンタ510のリセット端子R及びRSFF522a、522b、522cの端子Rが接続されている。カウンタ510の出力側には、一致検出回路514cの他方の入力側が接続されている。一致検出回路514cの出力側には、RSFF522cの端子S及びOR回路516の第1の入力端子が接続されている。

又、信号DATAは、OR回路516の第2の入力端子に入力されるようになっている。一致検出回路514aの出力側には、OR回路516の第3の入力端子が接続されると共に、RSFF522bの端子Sが接続されている。セクタ511bの端子Sは、RSFF522aの出力側に接続されている。セクタ511bの出力側にはセクタ511aの入力端子Bが接続され、セクタ511aの入力端子Aにはデータ“000”が入力されるようになっている。セクタ511aの端子Sは、RSFF522bの出力側に接続されている。セクタ511aの出力側にはセクタ511cの入力端子Aが接続され、インクリメント回路524の出力側にはセクタ511cの入力端子Bが接続されている。セクタ511cの出力側にはカウンタ503の入力端子Dが接続され、カウンタ503のクロック入力端子CKには基準クロックDCLKが入力されるようになっている。カウンタ503のリセット端子Rには、リセット信号RESが入力されるようになっている。カウンタ503の出力側には、一致検出回路514aの他方の入力側が接続されると共に、一致検出回路514bの他方の入力側が接続されている。カウンタ503の出力側から、アドレスカウント出力525が出力されるようになっている。一致検出回路514bの出力側には、OR回路516の第4の入力端子が接続されると共に、RSFF522aの端子Sが接続されてい



る。

第12図は、第11図の画像表示システムの動作を説明するための各部の信号のタイムチャートである。

第3の実施形態の画像表示システムでは、レジスタ505にスクロールスタートアドレス“120”、レジスタ506にスクロールエリアの先頭のアドレス“80”、レジスタ507にスクロールエリアの最後のアドレス“159”、及びレジスタ508に、表示ライン数である“240”から下固定表示エリアである“△”が書き込まれている表示アドレスの表示ライン数に相当する“80”を減じた“160”から更に“1”を減じた“159”が書き込まれ、第1の実施形態とほぼ同様の動作が図4の表示ロジック134よりも簡単な構成の表示ロジック134Bで行われる。

#### 産業上の利用可能性

以上説明したように、例えば、電子手帳や携帯電話等の電子システムに本発明の半導体装置を使用した場合、スクロールエリア及び固定表示エリアの初期設定を行えば、MPU11は、表示RAM131の表示データを書き換えることなく、レジスタにスクロールしたい先頭の表示アドレスを書き込むだけで、画面の一部分のみのスクロールを行うことができる。そのため、スクロール部分の表示データを書き換えるよりも、MPU11から表示RAM131に対するアクセス回数が圧倒的に少なくなり、スクロール時の消費電力を大幅に低減できる。更に、MPU11に表示RAM131の表示データを書き換え中に他の処理を割り込ませた場合、表示データを書き換えてスクロールすると、従来では書き換え途中の表示データが表示に出てしまうが、本発明により防止することができる。更に、全画面を表示するために必要なメモリよりも容量の大きいメモリを有していることにより、新しい表示データを含めて円滑にスクロールすることができる。

#### **【図面の簡単な説明】**

第1図は、本発明の第1の実施形態の画像表示システムの構成図である。

第2図は、従来の画像表示システムの構成図である。

第3図は、第2図のタイムチャートである。

第4図は、第1図中の表示ロジック回路134の回路図である。

第5図は、第4図中の一致検出回路514の回路図である。

第6図は、第1図のタイムチャートである。

第7図は、第4図のタイムチャートである。

第8図は、本発明の第2の実施形態の画像表示システムの構成図である。

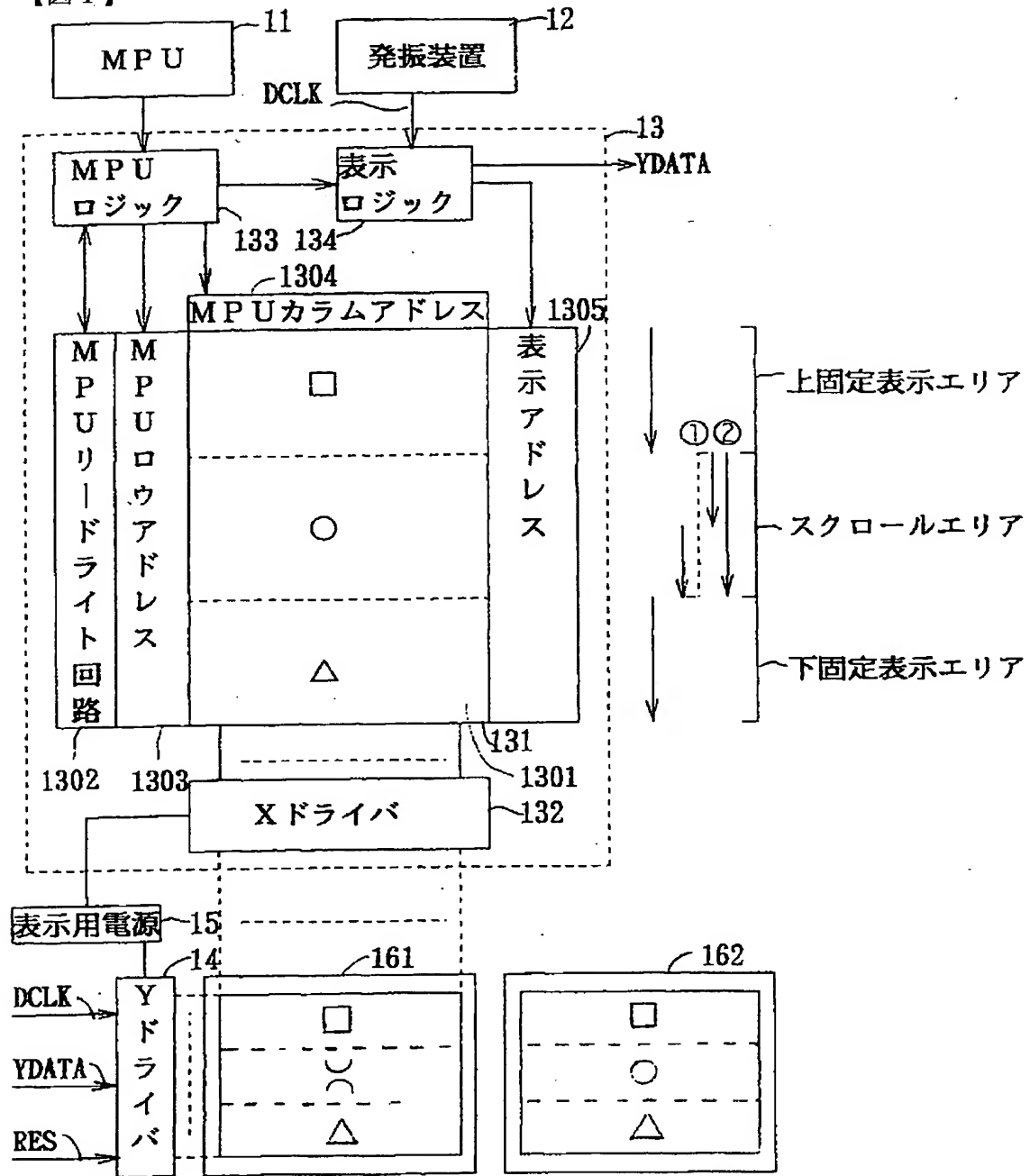
第9図は、第8図のタイムチャートである。

第10図は、本発明の第3の実施形態の画像表示システムである。

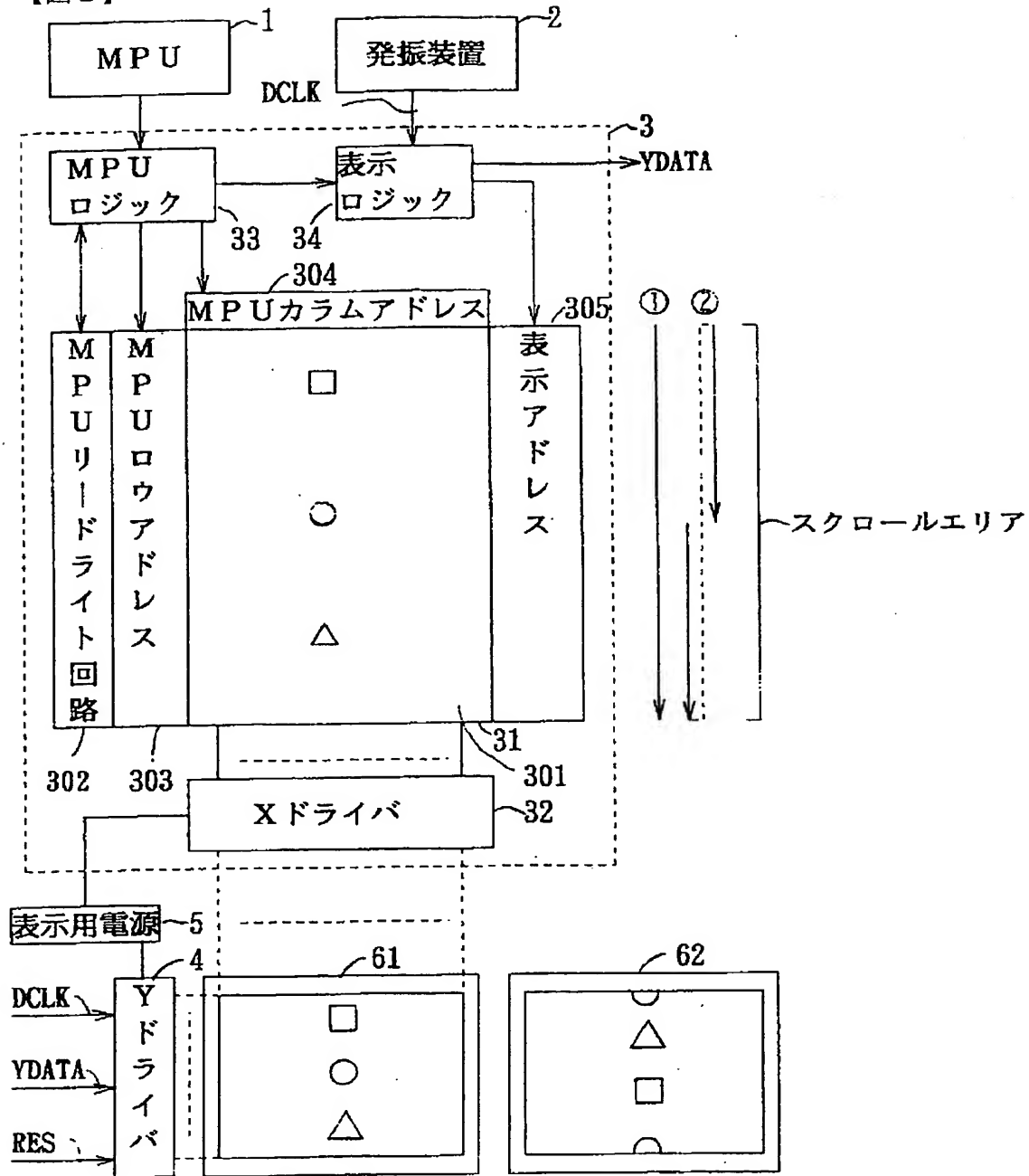
第11図は、第10図中の表示ロジック134Bの回路図である。

第12図は、第11図のタイムチャートである。

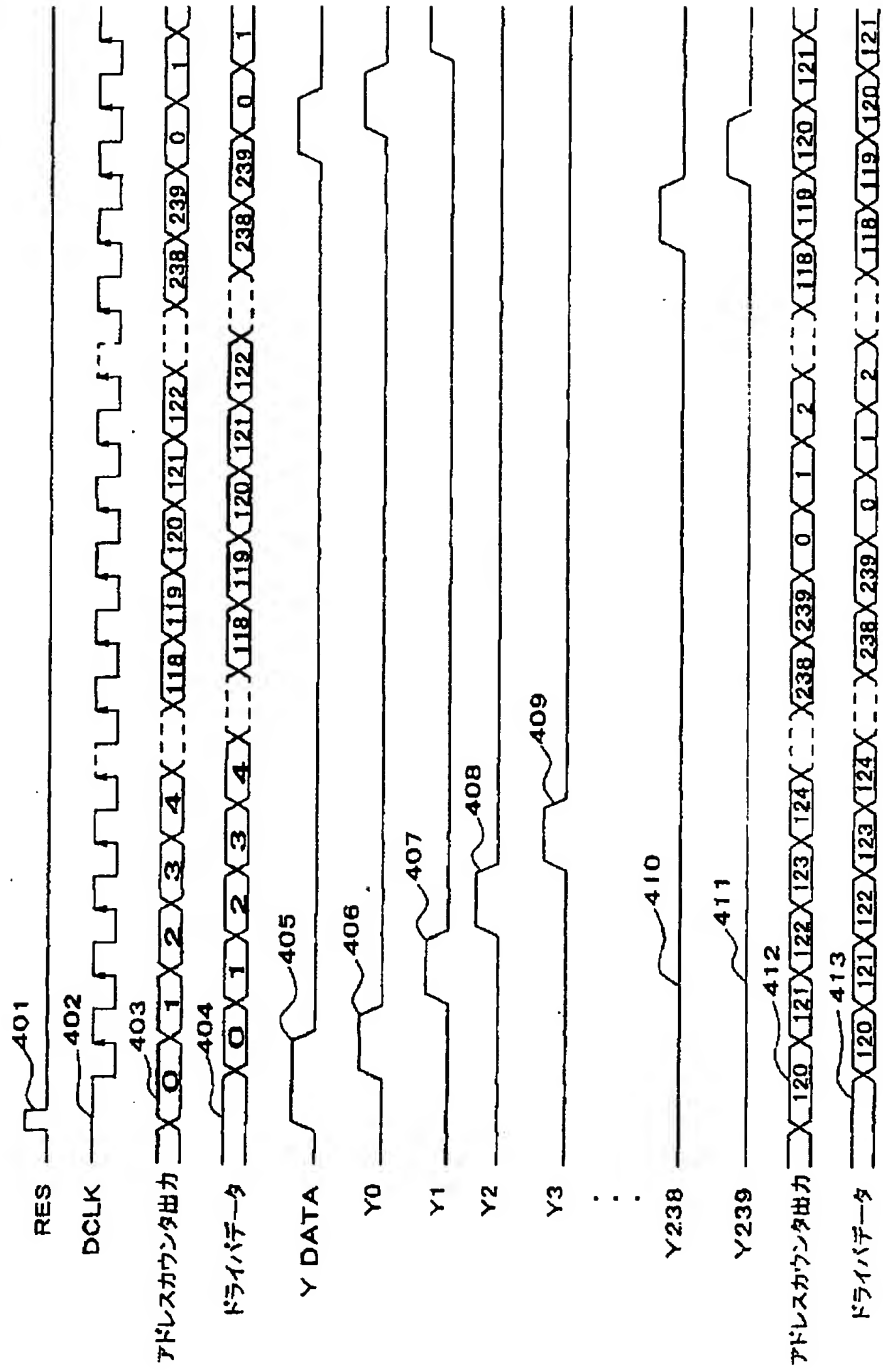
【図1】



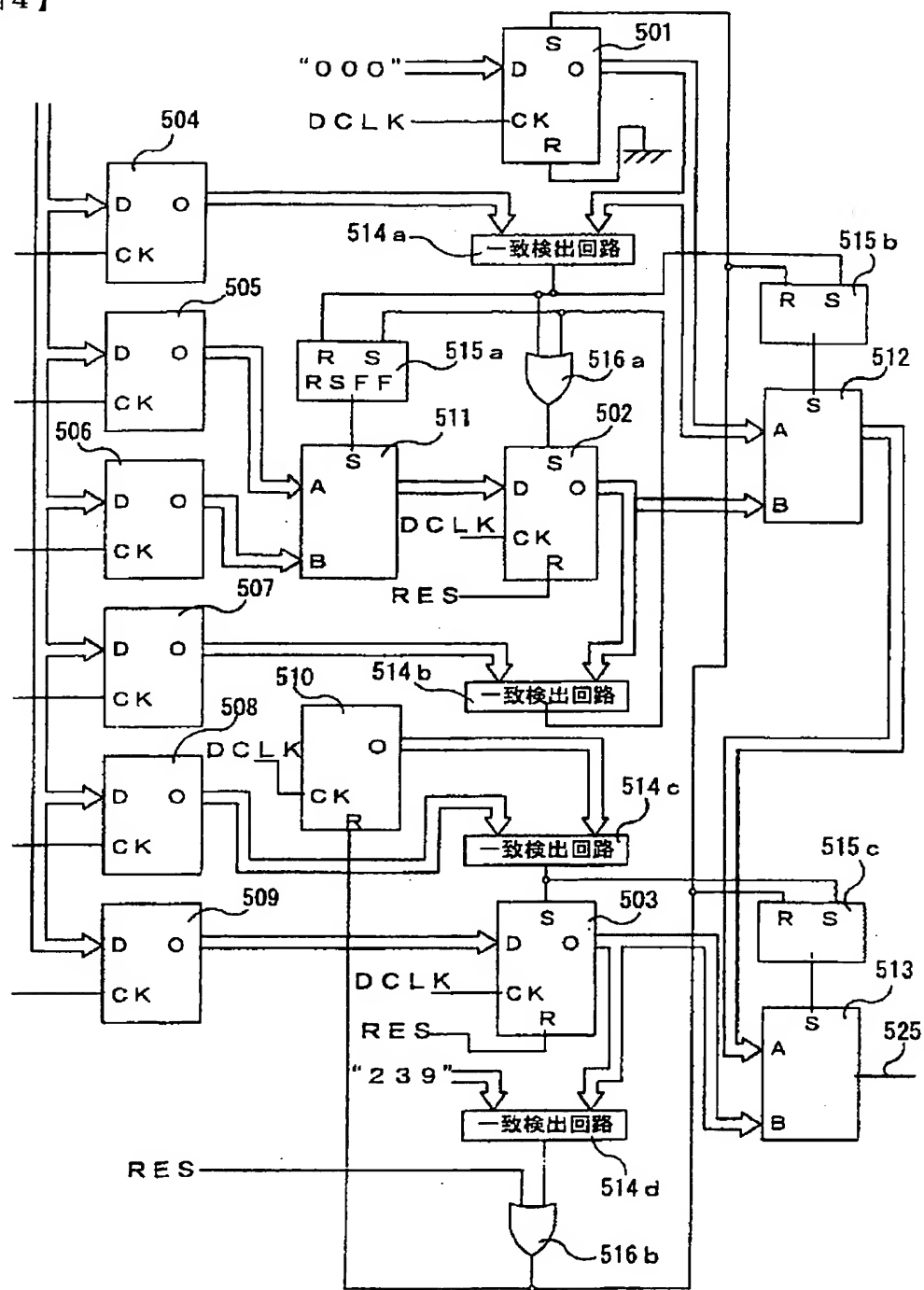
【図2】



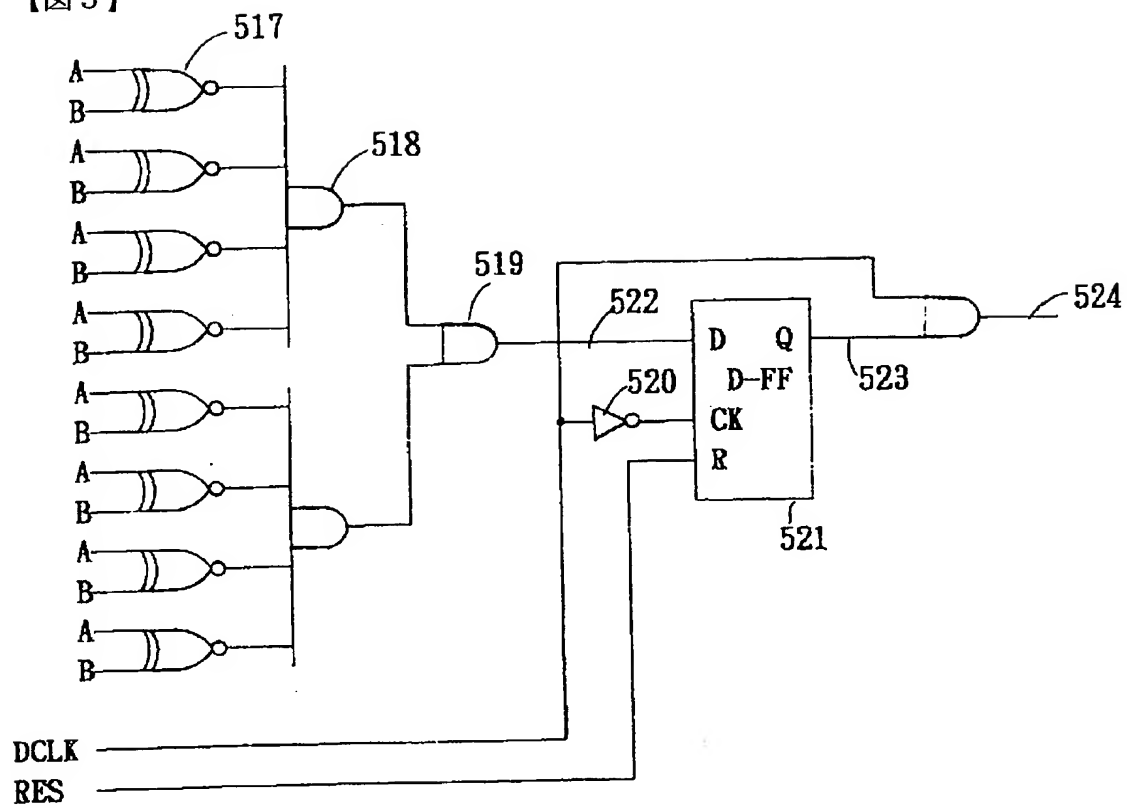
【図 3】



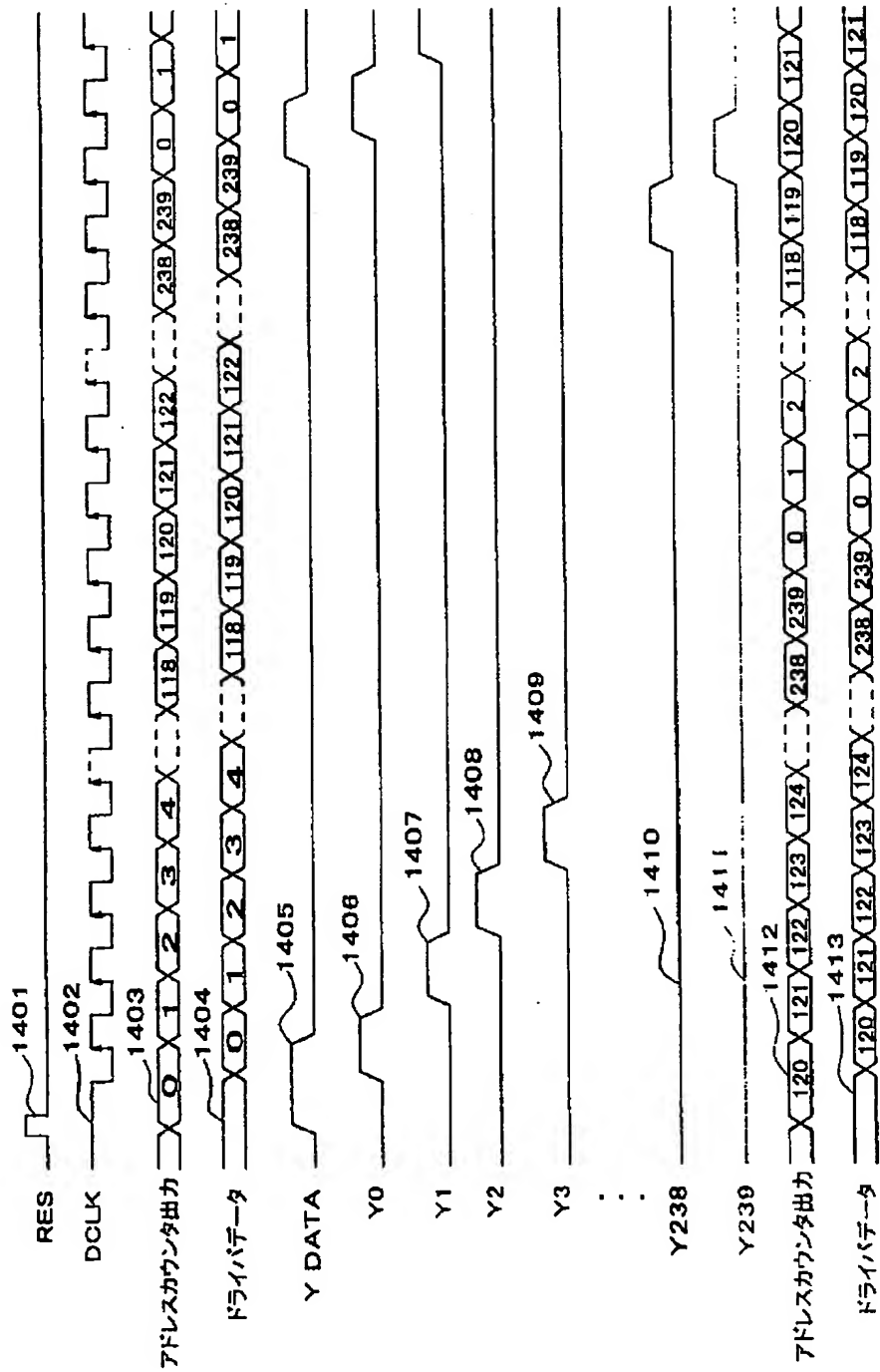
【図4】



【図5】

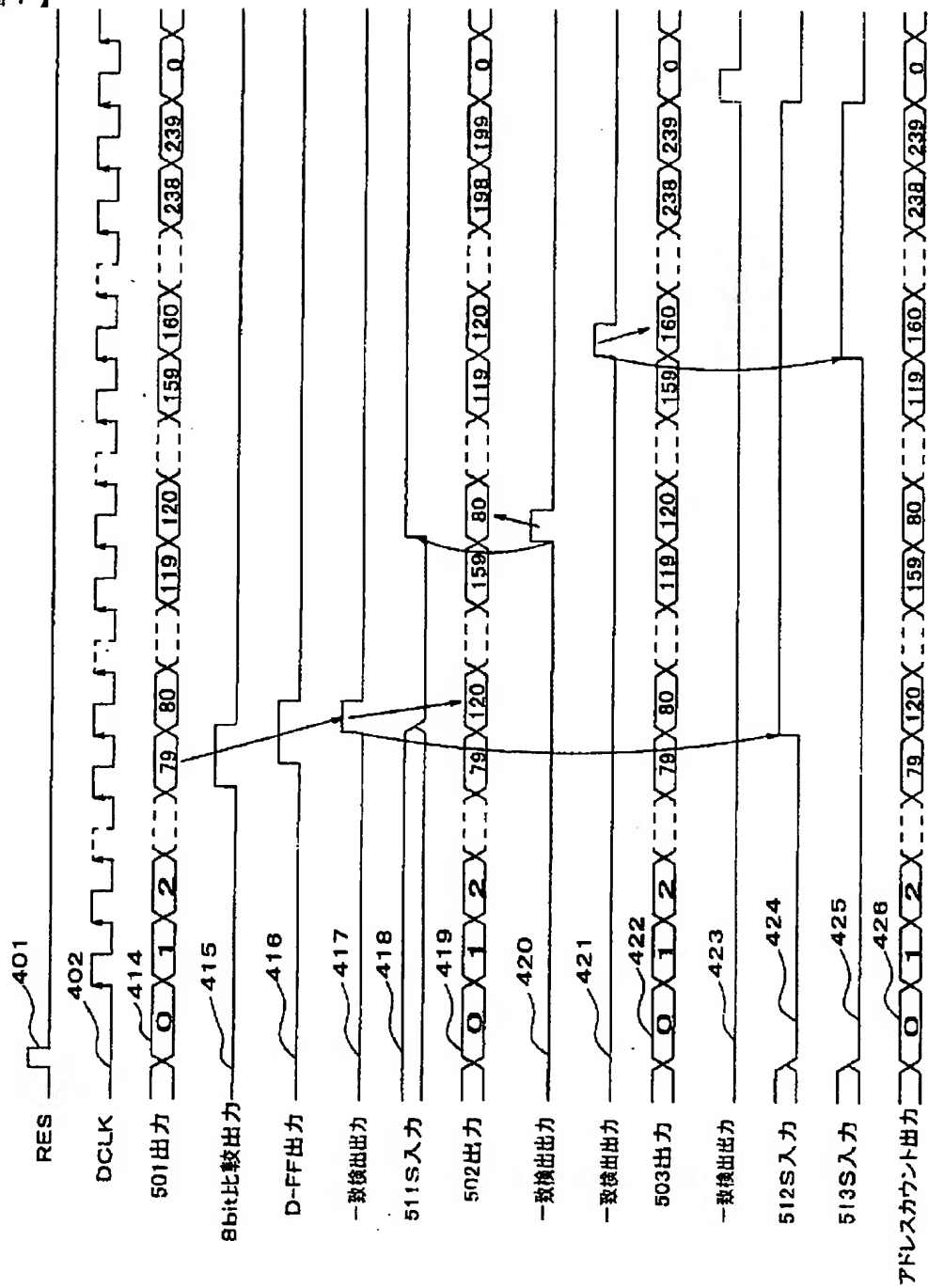


【図 6】

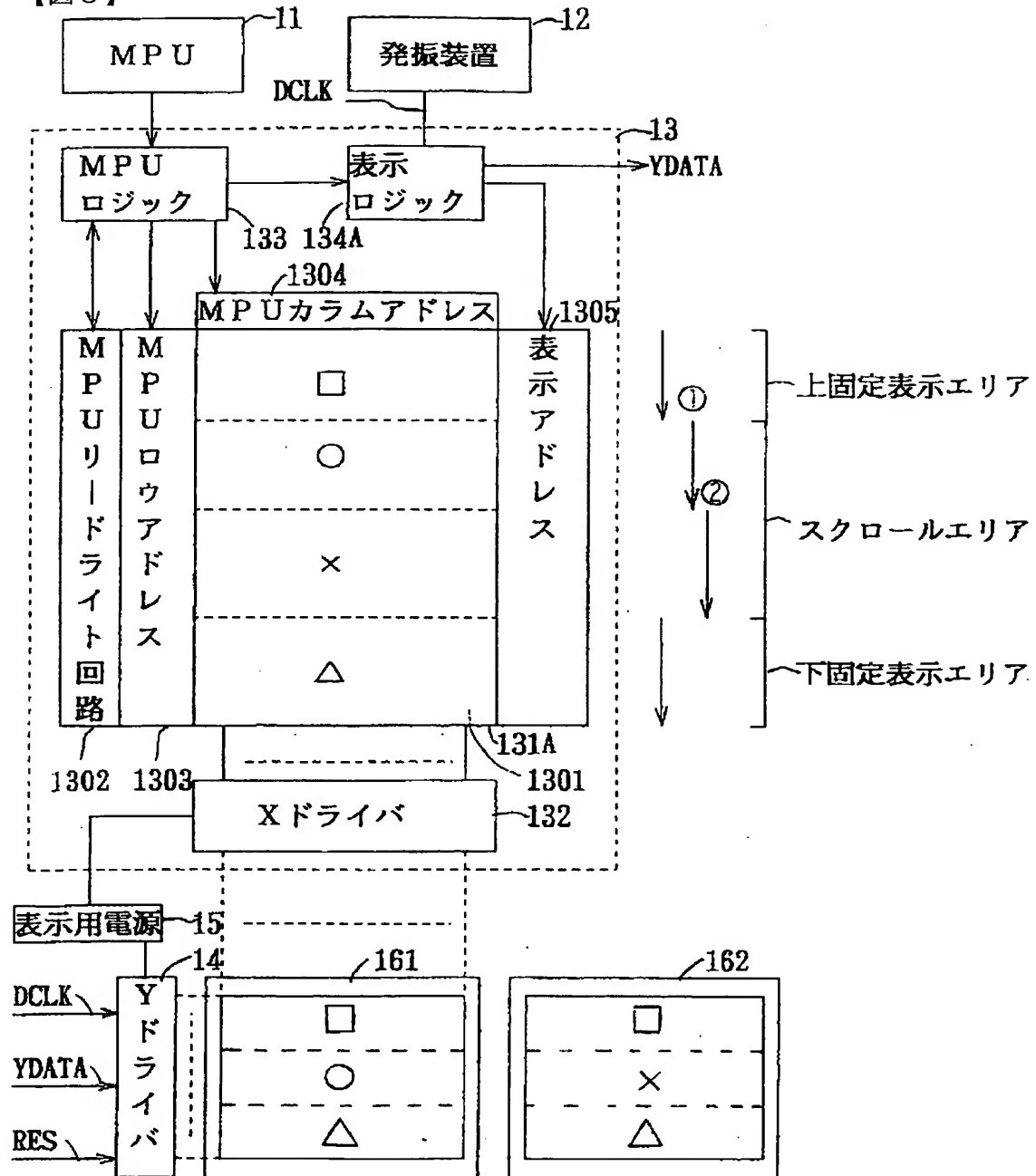




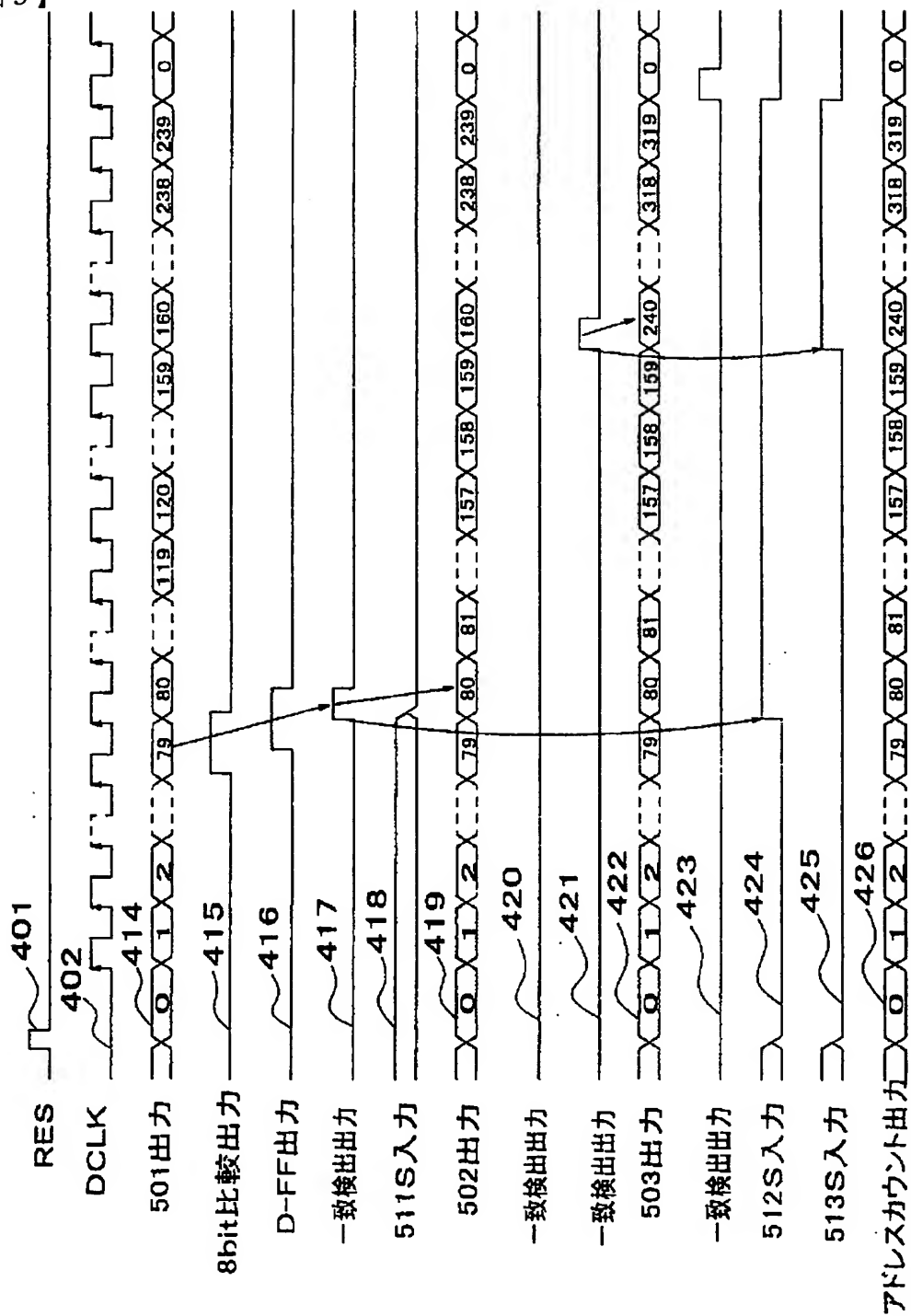
【図 7】



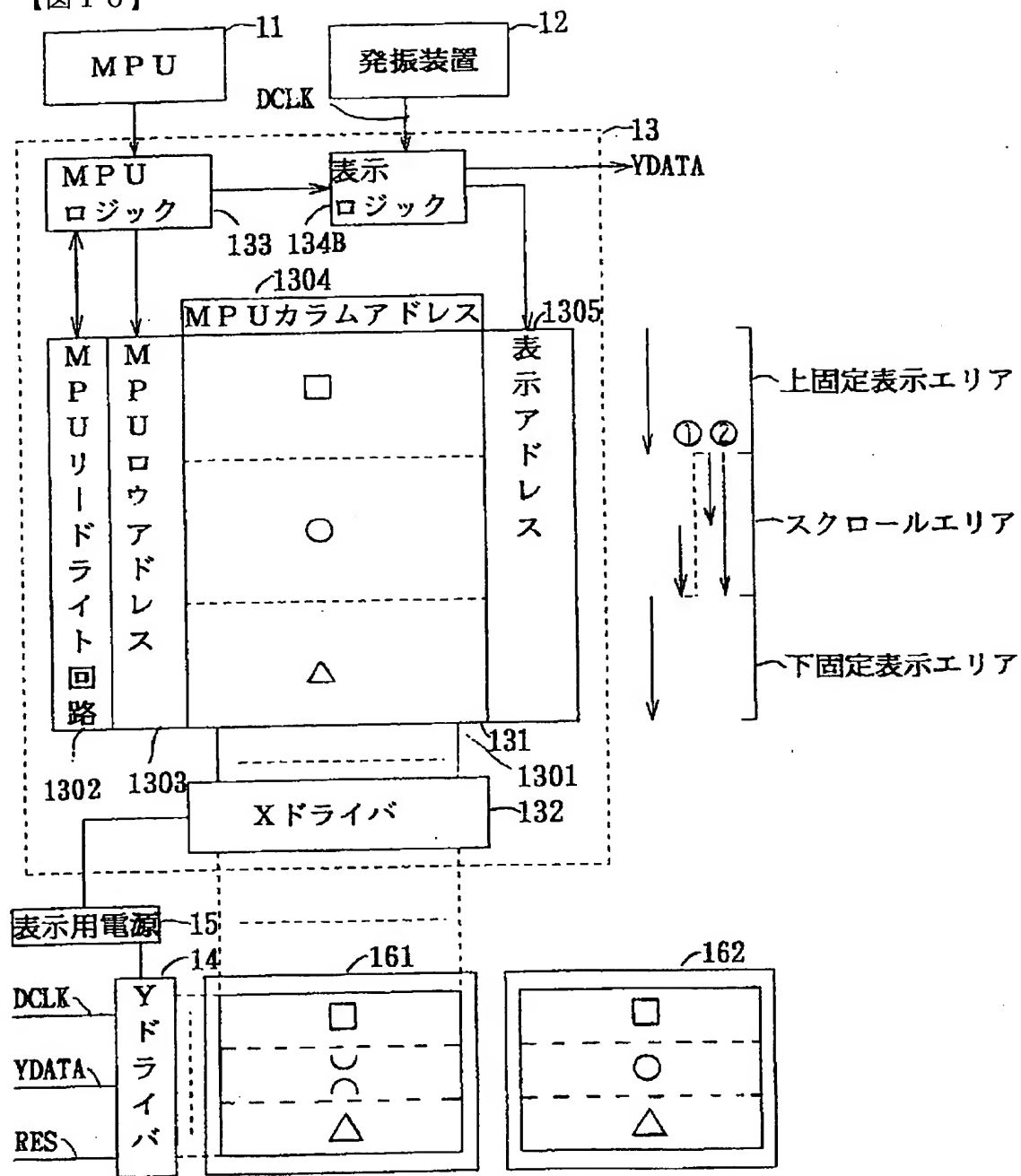
【図8】



【図 9】

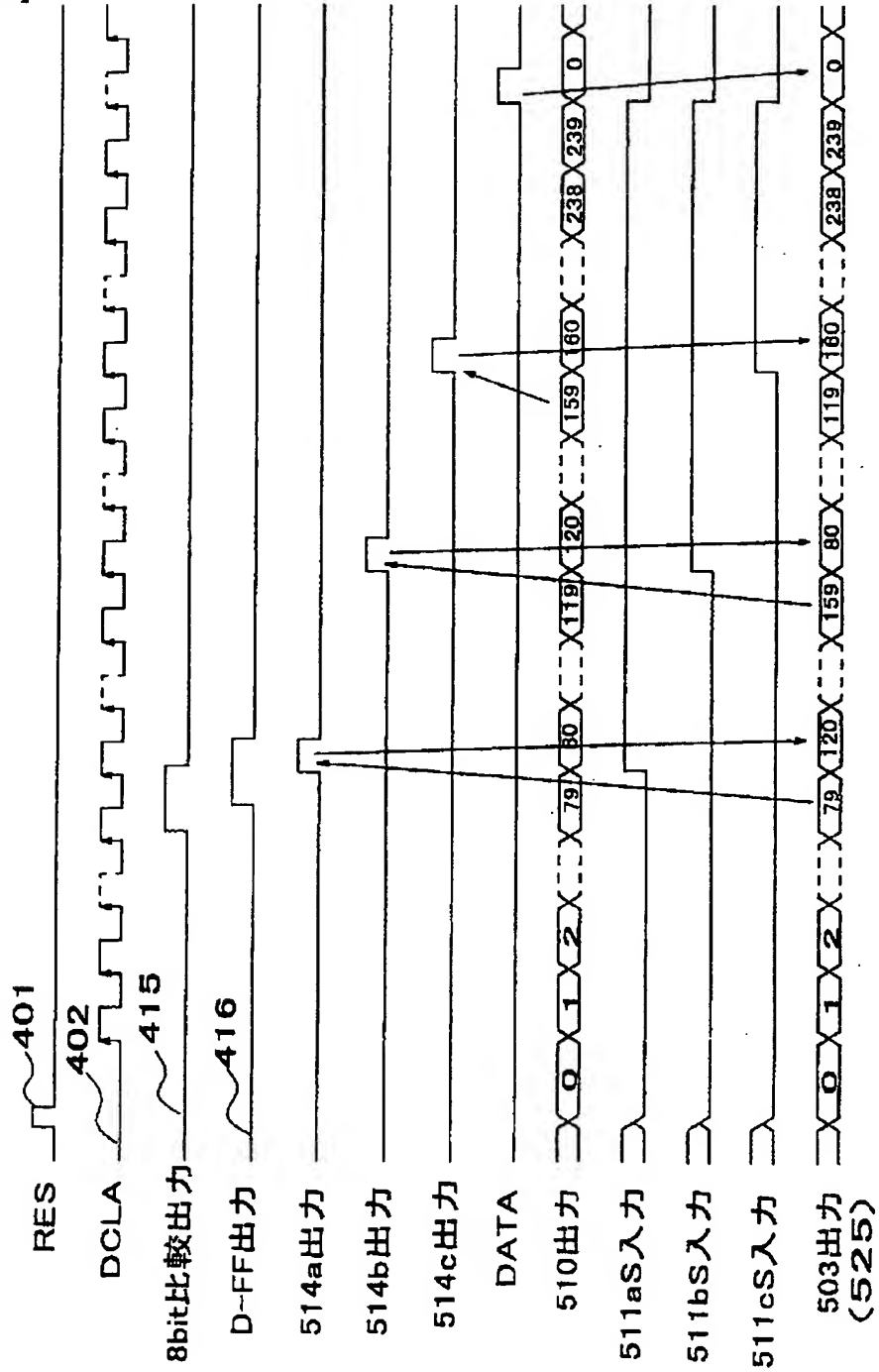


【図10】





【图 1 2】



## 【国際調査報告】

国際調査報告		国際出願番号 PCT/J P 99/03642	
<b>A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))</b> [Int Cl] <sup>*</sup> G 0 9 G 5 / 3 4 G 0 9 G 3 / 3 6			
<b>B. 調査を行った分野</b> 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC)) [Int Cl] <sup>*</sup> G 0 9 G 5 / 3 4 G 0 9 G 3 / 3 6			
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1926-1996 日本国公開実用新案公報 1971-1999 日本国登録実用新案公報 1994-1999 日本国実用新案登録公報 1996-1999			
国際調査で利用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)			
<b>C. 関連すると認められる文献</b>			
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号	
X Y	JP, 60-102689, A (デジタル・エクワイブメント・コーポレーション) 6. 6月. 1985 (06. 06. 85), 全文, 第1-8図&US, 4611202, A&EP, 145529, A2&DK, 498984, A&FI, 844087, A&AU, 3443784, A1&ZA, 8408033, A&BR, 8405251, A&CA, 1230890, A1&MX, 158178, A&KR, 9006943, B1	13, 18 1-12, 14-17, 19, 20	
X Y	JP, 2-94, A (株式会社リコー) 5. 1月. 1990 (05. 01. 90), 全文, 第1-24図 (ファミリーなし)	13, 18 1-12, 14-17, 19, 20	
<input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。			
* 引用文献のカテゴリー 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願日の後に公表された文献 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」 同一パテントファミリー文献			
国際調査を完了した日 21. 09. 99		国際調査報告の発送日 05.10.99	
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官 (権限のある職員) 小松 徹三 電話番号 03-3581-1101 内線 3226	

## 国際調査報告

国際出願番号 PCT/JP99/03642

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	JP, 63-204294, A (株式会社富士通ゼネラル) 2 3. 8月. 1988 (23. 08. 88), 全文、第1-3図 (フ ァミリーなし)	13, 18 1-12, 14-17, 19, 20
X Y	JP, 60-55389, A (株式会社日立製作所) 30. 3 月. 1985 (30. 03. 85), 全文、第1-6図 (ファミ リーなし)	13, 18 1-12, 14-17, 19, 20
X Y	JP, 55-147670, A (カシオ計算機株式会社) 17. 11月. 1980 (17. 11. 80), 全文、第1-4図 (フ ァミリーなし)	13, 18 1-12, 14-17, 19, 20
X Y	JP, 60-73573, A (三菱電機株式会社) 25. 4月. 1985 (25. 04. 85), 全文、第1-3図 (ファミリーな し)	13, 18 1-12, 14-17, 19, 20



---

(注) この公表は、国際事務局 (W I P O) により国際公開された公報を基に作成したものである。

なおこの公表に係る日本語特許出願 (日本語実用新案登録出願) の国際公開の効果は、特許法第 1 8 4 条の 1 0 第 1 項 (実用新案法第 4 8 条の 1 3 第 2 項) により生ずるものであり、本掲載とは関係ありません。